

平成 30 年(2018 年) 5 月 8 日
山 口 県 病 害 虫 防 除 所

- 1 病害虫名 ハナビシソウ白斑病 (仮称)
病原菌：*Entyloma eschscholziae* Harkness
- 2 作物名 ハナビシソウ (施設栽培)
 (ケシ科ハナビシソウ属、和名：ハナビシソウ、通称：カリフォルニアポピー)
- 3 特殊報の内容 新発生
- 4 発生経過
 - (1) 発生確認月日： 平成 30 年 2 月 9 日
 - (2) 発生地域： 柳井市
 - (3) 発生状況： 施設栽培のハナビシソウにおいて、葉に小斑点が生じる症状が確認された。神戸植物防疫所に診断を依頼したところ、国内で発生報告がない *Entyloma eschscholziae* による新病害であることが明らかになった。
- 5 本病の特徴
 - (1) 病徴
 ハナビシソウの葉及び葉柄に長さ 1～2 mm 程度の白色の斑点 (図 1) 及び白色で褐色の縁取りがある斑点または黄褐色で褐色の縁取りがある斑点が生じる (図 2)。斑点部の組織内に多数の黒穂胞子が認められる (図 3)。
 - (2) 病原菌の特徴
 黒穂胞子は、無色または黄色～淡褐色で、表面は平滑、壁は 2 層で、大きさは 8.1～12.7×7～12.1 μ m である (図 3)。
 - (3) 宿主
 Entyloma 属菌の宿主範囲は狭く、本病原菌の宿主は海外 (米国、英国など) のハナビシソウから報告されている。
- 6 発生地域における今後の防除対策
 - (1) 被害残渣は、ほ場外に持ち出して適切に処理する (焼却するか、土中深くに埋める)。
 - (2) 早期発見に努めるとともに、発生を確認した場合は罹病茎葉を速やかに除去する。
 - (3) 本病に登録されている薬剤はない。



図1 白色の斑点



図2 黄褐色で褐色の縁取りがある斑点

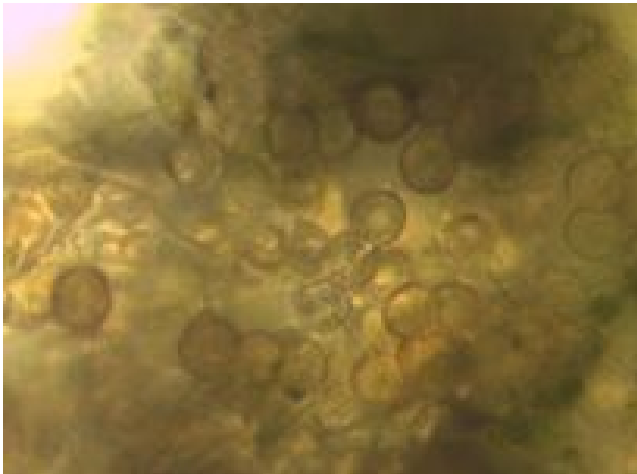


図3 組織内形成された病原菌の黒穂胞子